



グラムに来たら、ぜひ見てほしい「恋人岬」の夕焼け。ダイナミックな景観と、刻一刻と表情を変え、壮大なスケールで織りなされる大自然のショーに、思わず鳥肌が立つ

10月初旬にしては肌寒い成田空港を飛び立つて約3時間半、飛行機は時差マイナスイ時間のグラム国際空港に、定刻通りに到着した。通路に出たとたん、ムンとした熱気に包まれて、羽織っていた上着を脱ぐ。どこからか甘い果実の香りが漂ってくる――楽園の香りだ。さつきまでの日本という現実が、はるか遠くに感じられる。

### 楽園までひとつ飛び

「クルポコ」の「やつちまたなあー」ボートライフでも紹介していたとおり、プライベートでマリナーナリトルオーシャンのマリンクラブメンバーになっていて、国内では自分で操船し、釣りも楽しむ。でも、グラムで釣りをするのは初めてだ。相手のせんちゃん、初の海外旅行なのだそう。

まじめさんは、先月までの連載「クルポコ」の「やつちまたなあー」ボートライフでも紹介していたとおり、プライベートでマリナーナリトルオーシャンのマリンクラブメンバーになっていて、国内では自分で操船し、釣りも楽しむ。でも、グラムで釣りをするのは初めてだ。相手のせんちゃん、初の海外旅行なのだそう。

本人医師常駐「日本旅行者クリニック」を作った功労者であり、現在はグラム在住。そして宿泊するホテルは、なんと「ヒルトン・グラムリゾート&スパ」！広い敷地内にプール、スパ、プライベートビーチや、前述の「日本旅行者クリニック」まで完備した、これぞリゾートホテルという優雅さだ。

夕食は、ホテル内のタモン湾を望む「ツリーバー&レストラン」で、トロピック・パーベキューピュッフェと、大迫力のポリネシアン・ファイヤーダンスショーを楽しんだ。



小野だー！初のグラムだー！俺やっぱ思った！南国はサイコーだー！まず最高だったのは、食べもの！とにかくおいしくて、海外のご飯に対するビビリと抵抗がなくなったね。そしてやっぱ海だー！本当に透明度が高くてびっく！シュノーケリングをしてみると、10メートル以上の深さまで、くっきり見える。色紙みたいにきれいな魚もいっぱいいて、いまにも触れそうだった。そしてそれなによりも最高だったのが、グラムで釣りができたこと！熱帯魚を釣る経験なんて、なかなかできないし、しかもあんなきれいな海で、あんなに手軽にボートフィッシングができるなんて、思わなかった。本当にいい体験ができた。あー、グラムに帰りたいー！！

翌日は、ヒルトンホテル1階にある「マリナーナリトルオーシャン・グラム」の事務所に集合して、ボートで釣りに出ることになった。ホテルから同社が所有する屋根つき的大型カタマラン「FISH & I」号があるマリナーナまでは、車で10分ほど。グラム島の南西、海軍基地のあるアラ港の、入江の奥に位置している。

深20〜30メートルのエリア。いつでも穏やかな海域と聞いて、船酔いが心配なせんちゃんは嬉しそう。サビキ仕掛けを使って、手軽に熱帯魚たちを釣る予定だ。カサゴなどの根魚もいるので、ソフトルアーも用意する。



静止安定性抜群の大型カタマラン「FISH & I」号。4ストローク90馬力船外機の2基掛けて、のんびりと走る



絶妙のタイミングでスポンが落ちて、会場中が沸いた、クルポコ。with ポリネシアン・ファイヤーダンスショー。飛び入り参加だったのに、あの間合いはさすが！

ちなみにグラムでは、釣具店に行っても、並んでいるのはルアーばかりで、ゴカイやイソメなどの虫エサは手に入らない。エサ釣りの場合は、魚やイカの切り身、エビなどを使うのが一般的だそう。少しでも虫エサや生きエサなどが手に入れば、もっといろいろな魚が釣れるかもしれない。



# お笑いボートアングラー!? クールポコ。が行く

# 常夏の楽園グラムで 悦楽ボートフィッシングを満喫!

寒い日本を飛び出して、飛行機で3時間半。そこには美しい海、夢のような夕焼け、そしてゆったりと流れる極楽時間が待っていた。常夏のリゾートアイランド、グラム。今回はお笑いコンビのクールポコ。が、チャーターボートで釣り&シュノーケリングを体験。快適&極楽ボートフィッシングを満喫してきた。(編集部)

【文】伊藤佳子 【写真】宮崎克彦(本誌) 【編集】マリナーナリトルオーシャン マリナーナリトルオーシャン・グラム ヒルトン・グラムリゾート&スパ



グラムの海、満喫だー！魚がいっぱいで、まるで夢の世界みたいだ！グラムに来たら、この海を体験しなきゃもったいない！ライフジャケットも借りられるので、まったく泳げない人でも、すばらしい海の世界を気軽に垣間見られるよー！



泳ぎが苦手な人は、ライフジャケットを着て海をのぞく。海の景色も魚たちの姿も美しいし、穏やかな波に揺られているのも心地いい

パンくずやソーセージをちぎって撒くと、あっという間に魚たちが集まってくる。食べたり取り合ったりする姿を間近に見られて、本当にかわいい

な魚たちの生き生きとした営みと、緩やかな潮の流れに漂う心地よさに、いつしか時を忘れて癒される。ついつい水着でいつまでも漂っていたくなってしまうが、女性や肌の弱い人は日焼けにご注意！

キャプテン・アークの泳ぎのうまさは格別で、まるでイルカのように

だが、まじめさんもかなりうまくて、ときおり美しいフォームで海底に群がる魚に向かって潜水していく。ところでせんちゃん？ 昨日は短い時間ではあったが、あまり泳ぎが得意ではないからと、ライフジャケットを着用して海上散歩を楽しんでいたのだが、今日はなにやら船上でぐったりとしている。そして、

「歯が痛い〜」  
と、よわよわしい声。虫歯が腫れて、痛むのだそう。これは大変！  
とりあえず水で冷やして、「日本旅行者クリニック」で痛み止めをもらおう、ということになったが、なんと旅行保険に入っていないという。実費で診療してもらおうと、とんでもない費用がかかるはず。仕方なく市販の薬を飲んで、日本に帰ってから治療することにした。帰国まで痛々しくて、ちょっとつらそうだった。

最後はそんなトラフルはあったものの、夢のような楽園での時間をすごし、すっかりフレッシュな気持ちで泊4日。日本に戻ればまた慌ただしい日常が始まるが、これでしばらくは元気に頑張れる……。でもきつと、すぐにグアムの美しい海と空が恋しくなることだろう。

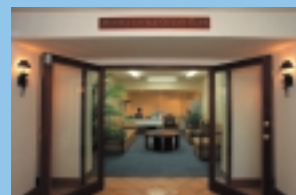
### 日本旅行者クリニック



TEL: 1-671-648-0119  
http://tourist-clinic.com/

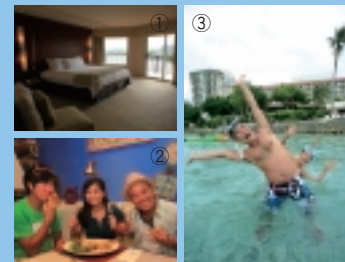
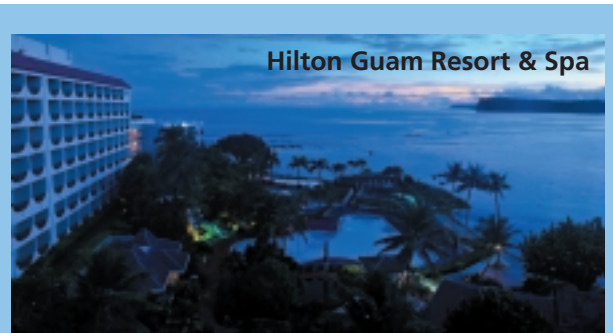
院長は日本人の大磯明雄さん。日本人旅行者は、24時間日本語対応の予約電話一本で、手軽に診察、処置、投薬まで可能。旅行保険対応。以前は高額な通訳を雇い、息患でも何時間も地元の病院で待たされたことを考えると、このクリニックのおかげで、グアム旅行がより安心で手軽なものになったといえる。

### MARINA LITTLE OCEAN GUAM



TEL: 1-671-647-4852 http://www.mlo-guam.com  
日本の問い合わせ先: マリーナリトルオーシャン東京  
TEL: 03-3653-5427

「FISH & I」号で、フィッシングクルーズ、シュノーケリングなどを体験(大人1人70ドル〜)。道具類も無料でレンタルできるので、手ぶらで気軽に参加できる。大物ねらいなどの貸し切りも可能(要問い合わせ)。



今年40周年を迎えたヒルトン・グアムでは、高級スパテラピー、ウォーターパーク、プライベートビーチ、美しい朝食が堪能できる客室など、極上の癒しの空間が用意されている。ホテル内には「日本旅行者クリニック」も完備。また2010年にオープンしたカジュアルシーフードレストラン「フィッシャーメンズ・コープ」では、新鮮な魚介類を自分でチョイスして料理してもらえる。

TEL: 1-671-646-1835  
http://www.hilton-guam.com

①憧れのプレミア・ロイヤルスイート  
②フィッシャーメンズ・コープ  
③目の前はプライベートビーチ!



雲ひとつない晴天がみるみる曇って、突然スクロールが降りだすことも多いグアム。屋根のあるボートなら、そんなハプニングさえ楽しめる

頼れるキャプテン・アークはパラオ出身。一般にグアム出身者は泳げない人が多いそう。対してパラオのチャモロは幼いうちから海に親しみ、海の中を自由に泳ぎ回るのである。



小野さんが釣り上げたのは、通称グアムイサキと呼ばれるかわいい魚でもせんちゃん魚より小さくて、微妙な笑顔



ボートに同乗してくれる、マリーナリトルオーシャン・グアムのスタッフ、高桑さんは、グアムでの釣りの仕方をていねいに説明してくれるので、初心者でも釣れるぞ!



ポイントまでは細い水路をさかのぼる。まるで映画に出てきそうな周りの景色に思わずうっとり。フネには屋根があるから涼しい、最高!

を出てオテロ岬を越えればすぐには外海(太平洋)なので、釣れた小魚をエサにして、クエやハタなどの大物をねらうことも可能なのだ。「うーっし、釣るぞー!」  
と、気合の入るまじめさん。  
そして時間があれば、シュノーケリングもできるという。ただし、シュノーケリングは、釣りのポイントよりも、もう少し水深の浅い場所のほうがきれいなのだそう。



自分で釣った魚を、地元の料理店で料理してもらえさう。サビも付いている(別料金)。見かけによらず濃厚で旨い刺身や、激ウマの空揚げに、思わず感嘆の声を上げる二人

ポイントに着いてさらに感激。海底まで見えそうなほど水は澄んでいて、エサのパンなどを投げると、あつという間に色とりどりの魚たちが集まってくるのだ。すぐに飛び込みたくなる衝動を抑え、タックルを準備する。スタッフがエサの

準備や釣り方の指導などをしてくるし、初心者にはエサ付けから魚の取り込み、根掛かりなどの対処まで、ていねいにやってくれるので安心だ。  
クルールポコ。の二人は、最初だけ教えてもらおうと、さっそく自分たちでサビキ釣りを始める。そして最初に魚を釣り上げたのはせんちゃん! 毒々しいほどの色鮮やかさだが、食べるとおいしい魚だという。うらやましそうな、恨めしそうな小野さんにも、間もなくヒット! でもせんちゃんほど派手な魚ではなく、やっぱりちよつと不満? それにしても、次々にいろいろな魚が釣れて楽しい。どの魚もキャンディーかおもちゃのように派手な色と形。バケツのなかは、またたく間に色鮮やかな水族館状態になっていった。

初めての海外、グアム。初めての国際線。グアムを噛みながら、僕のパスポートをチェックする検査員。空港を出ると初めての右車線。ドキドキが止まらないよ! でも、ホテルからの眺めは最高! オーシャンビューとはこのことか。ドキドキがワクワクに変わっていた。そしてグアムの海で釣った色鮮やかな魚! あったかい海でのシュノーケリング! 迫力満点のファイヤーダンス! ボリューム満点のステーキ! もうドキドキじゃなく、ワクワクの連続だったが、帰る前日、初めての海外での虫歯! スキズキが止まらないよ。海外旅行保険? 初耳だよ。タジタジだよ! みんな、保険には入っていたほうがいいんだよ!



一方、外海に出なくても十分に大物が出る可能性はあったそうだが、デッドベイトで大物を誘う松永さんのサオは、その日は最後までビクリとも反応しなかった。  
**魚たちの世界へ**  
3日目は、朝から雲ひとつなく晴れていた。午前中に浅場に行くと、シュノーケリングをすることになった。前日のポイントが見えるくらいの近い場所だが、水の色はさらに透明度が高く、浅いためか、海底の岩の様子もよく見える。パンをちぎって投げると、また、たくさん的小魚たちが集まってきた。ソーセージをもらって、それを手に、ちぎって魚を集めながら潜るのだ。さっそく海に入っていくまじめさんと松永さん。海水温はかなり高く、日本の水より塩辛い。そして目の前でエサをついばむ、カラフル